クラス	Q305	担当教員	佐々木　将芳

テーマ	障害をもつ子どもや家族に対する個別援助と地域での生活支援
著書・論文 研究課題等	著書　：１『障害者の人権と発達』　共著　2007 年 8 月　全障研出版部 ２『子どもの権利と障害者自立支援法』　共著　2007 年 12 月　全障研出版部 ３『しょうがい児支援ハンドブック』　共著　2009 年 7 月　かもがわ出版 ４『特別支援教育大事典』　共著　2010 年 2 月　旬報社 研究課題：①障害をもつ学齢期の子どもの放課後・学校外での生活支援 ②育ち難さをもつ乳幼児への「発達」と「家族」の視点に立った療育支援 ③障害児・者福祉制度に対する「権利の視点」からの課題分析

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：発達、障害、地域支援、家族支援

【目的】

ある先生がこう言いました。援助者は、「子どもの発達を愛せなければいけない」。この言葉の意味をみなさんはどの様に受け止め、解釈しますか？

障害をもつ、もたないに関わらず、子どもたちは主体性を発揮するためにいろいろな支援を必要とします。そして、家族にとっても子どもの育ちに安心して向き合え、喜び合える仕組みと、その仕組みを実現し実践していく人（教員、保育者、指導員、ケースワーカー等）が重要な役割を持ちます。子どもや家族を正面から、または側面から支える専門職は、当事者である子どもや家族のねがいをその姿や言葉から汲み取る力が必要です。また、子どもの権利条約でも触れられているような、年齢や発達の状況に応じた、適切な仲間関係と生活の環境が準備されなければなりません。

ゼミでは、「その人個人だけの力」だけでは十分に生活上のニーズに対応することが難しい状態とは何かを理解し、そのような状況にある人（子どもや、その家族）へ、どの様な支援が必要かを考えます。

【学習目標】

３年次：「発達とは何か」や「障害をどう考えるのか」について文献学習を行います。その中で、子ども一人ひとりに適切に関わるための基本的知識の習得を目指します。また、分担して資料を作成し発表することで、卒業論文にむけた、論文作成に必要な技術、作法を学びます。

４年次：卒業論文作成に向けた問題意識の設定や、研究課題を設定します。そして、必要な資料収集や、資料の整理ができる様になります。また、必要に応じて調査、聞き取りを実施することで、卒業論文を完成させます。

【方法・計画】

３年次前期：文献学習を通して、文章を読み解く力と発表する力を身につけます。具体的には発表資料を作る作業を通して、文献の要約精度や問題設定の適切さを磨きます。

後期：ボランティア活動や実習などの経験を通して、自分の問題意識を明確にします。ゼミ生の興味関心に応じたグループ学習やフィールドワークも検討します。また、見学旅行やゼミ合宿も行います。

４　年　次：３年次のゼミを通して、自らの興味、関心を向けた分野・領域での卒業論文作成に入ります。

前期では、文献学習や、資料収集とその内容発表を中心に行います。

後期は、実際の卒論の構成に沿った（章、節割り）経過発表を進めます。その中で、自分だけで卒論を完成させるのではなく、仲間との共同作業の結果としての卒論を目指します。

担当教員からのメッセージ

これまで、障害児施設での発達相談や、保育所での巡回相談を行ってきました。メジャーな仕事とは言えませんが、子どもの発達や家族の生活支援にはとても重要な役割だと感じています。また、保護者や関係者とともに、障害児支援の事業所も運営しています。乳幼児期から学齢期へ、福祉から教育への移行と支援の継続性、そして、ともに子どもの変化を感じ、喜び合える、変わらないキーパーソンの必要性を実感しています。「おとな」であれ「子ども」であれ「人」としての「尊厳」を尊重できることが実践者として必要な最低限の力だと思います。皆さんと一緒に、子どもの発達を守り支えることの意味や支援の内容を考えていくことを楽しみにしています。